

広報津 TSU

- 新年のごあいさつ P2
- 市長新春対談～田中里沙さん～ P4
- 歴史散歩～新春特集～ 川喜田半泥子 P8
- 津市長が選ぶ平成25年市政の10大ニュース P10
- 新春市民インタビュー P12
- みんなの情報掲示板 P14
- 市長コラム・市長活動日記から P16

新春

▼上手にできるかな？ 地域のボランティアの皆さんを講師に招き、「むかしのあそび」を体験／南が丘小学校



弁護士法人 心

企業法務・過払金・借金・交通事故・後遺障害・相続・遺言・刑事他

交通事故 賠償額 後遺障害 過払金 無料 診断サービス実施中

西尾有司 <三重> 荒川陽香 <愛知> 田中三貴 <三重>
 森田清則 <愛知> 斎藤美津 <三重> 古田裕佳 <岐阜>
 川戸雄介 <三重> 赤田光晴 <愛知> 湯谷三重 <三重>
 柄澤登子 <東京> 陶山智清 <岐阜> 長谷川隆 <愛知>
 里雅仁 <愛知> 石井浩一 <東京> 岩橋毅彦 <愛知>

※主たる事務所は愛知県弁護士会所属、<>内は弁護士名です

相談料0円 (過払金・借金・交通事故・後遺障害・相続・遺言・刑事他 以外は初回30分程度) 夜間・土日相談可(要予約) 広告

総合受付 0120-41-2403 平日9時～22時受付 詳細は⇒ <http://kokoro.la> (一般電話: 052-485-6003)

津駅法律事務所 <三重弁護士会> 津駅0.5分

松阪駅法律事務所 <三重> 松阪駅1分

名古屋駅法律事務所 <愛知> 名古屋駅0.5分

名古屋みなと法律事務所 <愛知> 名古屋みなと法律事務所

東京駅法律事務所 <東京> 東京駅2分

豊田市駅法律事務所 <愛知> 豊田市駅3分

岐阜駅法律事務所 <岐阜> 岐阜駅3分



新年のごあいさつ

皆さまの想いを形に、
津市の魅力を全国に

津市長 前葉 泰幸

市民の皆様、明けましておめでとうございます。

謹んで年頭のご挨拶を申し上げ、皆様と共に穏やかな新年を迎えることができましたことに感謝申し上げます。

昨年は、新最終処分場・リサイクルセンター、新斎場、産業・スポーツセンターの建設やJR名松線全線復旧という大きな4つのプロジェクトの工事の槌音が響き始めました。防災に目を向けますと、津波緊急避難場所ともなる香良洲高台防災公園構想が動き始め、水害時の波瀬川における避難勧告、避難指示の発令基準と対象地域の見直しなどを行いました。また、耐震性に課題のあった津市中央公民館は、津センターパレスへ移転することができ、施設をご利用いただいた人が地元商店街で買い物などの際に特典が受けられる「中心市街地ご来街感謝券」の発行につながりました。

これらの事業は全て地元の皆様の熱い想い、そして多大なるご協力により進展したものです。あらためてお礼申し上げます。

今年、津市は市町村合併後9年目を迎え、合併後のまちづくりの集大成に向けて、非常に重要な一年になります。先に申し上げた4つのプロジェクト事業は、平成27年から28年にかけて供用を開始します。鋭意整備を進めるとともに、「道の駅」河芸（仮称）、千歳山の整備に向けた取り組みや、下水・排水、救急、子育て対策など市民生活の基礎となる土台をしっかりと築いてまいります。

さて、3月には、全日本合唱連盟による次世代を担う合唱人の育成のための音楽プロジェクト「JCAユースクワイア」、11月には、全国の博物館関係者が研究協議を行う「全国博物館大会」が津市で開催されます。また、都会の若者が林業に従事しながら成長する姿を描いた三浦しをんさんのベストセラー小説が映画「WOOD JOB! (ウッジョブ!) ～神去なあなあ日常～」として公開されます。美杉がロケ地となりましたので、ぜひご覧いただきたいと思います。

皆様の想いを形に、津市の魅力を全国に、それが津市の実力を高めることにつながります。皆様と共に歩みを進めます。

本年が、明るい希望と笑顔あふれる一年となりますことを心からお祈り申し上げます。

誇れるまちづくりを皆さまと共に

津市議会

新年、明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。

去年は、記録的猛暑や地域によっては雨不足に悩まされたところがある一方で、大雨による土砂災害が発生するなど皆さまの記憶にも新しいことかと思いますが、自然の脅威を目の当たりにし、あらためて防災・減災に向けたさらなる取り組みの必要性を感じたところであります。

さて、今年、平成18年1月1日の市町村合併から早くも9年目を迎え、重要施策でありました新最終処分場や新斎場などの大型プロジェクトが本格的に動き出し、また、津市の基本構想である津市総合計画も折り返しを過ぎ、津市の基礎固めに向け津市総合計画後期基本計画に基づく施策の着実な推進を見据えた取り組みが必要となります。

これまで、津市議会といたしましても総合計画をはじめ各種計画の推進や行財政改革の取り組みなどに対し、市民の皆さまの福祉の向上や安全・安心なまちづくりのため、さまざまな視点から議論を行ってまいりましたが、総合計画に掲げる本市の将来像「環境と共生し、心豊かで元気あふれる美しい県都」の実現のために、さらに議会の権能を発揮し、諸課題の解決に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

市議会は、やがてひと月ほどで新たな体制となりますが、今後も市民の皆さまの負託に応え、将来に誇れるまちづくりのため、皆さまと共に一步一步進んでまいりたいと思います。

この一年が市民の皆さまにとりまして、輝かしい年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

おお ぼら やま

大洞山山頂付近から望む朝日(美杉町八知)

市長新春対談

～広告の世界に魅了されて～



広告専門誌「宣伝会議」編集室長
田中 里沙さん

津市長前葉 泰幸

平成25年11月13日、広告専門誌「宣伝会議」編集室長の田中里沙さんを前葉泰幸市長が訪ね、三重県の首都圏営業拠点「三重テラス」で首都圏から見た津市の施策や情報発信などについてお話を伺いました。

夢に向かってチャレンジ

市長 田中さんは、津市出身で津高校を卒業後、上京され、現在、株式会社宣伝会議の編集室長という立場で「宣伝会議」や「月刊事業構想」といった専門誌を発行されています。これらの冊子の内容や会社についてご紹介いただけますか。

田中 はい。「宣伝会議」は企業や自治体、大学などに対し、さまざまな事例を交えながら、広告宣伝やコミュニケーションの手法、考え方を紹介する雑誌で、会社の創立

当初から発行しており、今年で発刊60年目を迎えます。

市長 単に物を売るための広告だけでなく、いわゆる広告宣伝のノウハウを伝える冊子ということですね。

田中 そうなんです。創刊と同時にコピーライターやマーケターを育成する教育事業も行っていて、その流れの中で、2012年の春には文部科学省の認可を受けた「事業構想大学院大学」を設立しました。その大学出版部で発行している雑誌が「月刊事業構想」になります。

目の前にある構想を形にするためには、いろいろなアイデアと仲間が必要ですので、この雑誌を通じ、多くの人をつながたいと考えています。

市長 広告の世界に入られたのは、どのようなきっかけがあったのですか。

田中 当初は大学卒業後、津市に戻ろうという気持ちもあったのですが、東京で広報や宣伝という世界があることを知り、ぜひこ



の仕事に就きたいという気持ちが芽生えたことがきっかけです。当時は男女雇用機会均等法が施行されたばかりで、社会の中で女性がどのように活躍するかの道筋があまり立っていない状況でした。前例のないものを自分でつくっていく時代でしたので、成功も約束されていませんが、失敗することもないだろうと思っていました。

市長 自分自身の夢を実現するために、やりたいことを見つけてチャレンジするということは、とても勇気のいることですね。

田中 仕事をしていく中で、いろいろな人と出会い、そのネットワークの中で自分を成長させることができました。それが今日につながっていると思います。

新しい地方公共団体の役割

市長 現在、三重県経営戦略会議の委員を務めてみえますが、自治体組織の経営はどのように見えますか。

田中 今までの県や市は、どちらかというと地域の住民を先導していく存在で、決まった仕事を着実にやっていけば良かったと思います。今は、社会の考え方も変わってきましたし、人々の暮らし方も多様なものとなってきています。そして地域の中でも、さまざまな分野で活躍される方がたくさんいらっしゃいます。そんな中で県や市の存在、役割も変化してきていると思います。単に地域住民を引っ張っていくだけではなく、地域の中で活躍している皆さんを取りまとめ、コーディネートしていくような役割が求められていると思うのです。

市長 私たちが今考えていることなど伝えるべきことは伝えて、そしてそのことに対して市民の皆さんはどのようにお考えですかと、逆に受け止めることが必要ですね。

田中 そうですね。これからの地方公共団体は、自分たちの県や市が行っていること、地域で活



躍する人々、そして自分たちのまちの魅力などをPRしていく役割がさらに大きくなってくると思います。県や市がメディアの役割をされる時代に入ってきているのではないのでしょうか。

市長 地域住民のみんなの力をまとめて、さらにそれをプロモーションしていくということですね。

田中 「月刊事業構想」の中には、1つの大きな柱として地域活性のページがあります。ここでは、地域をいかにつくっていくかという地域経営について、皆さんお話をされていますので、やはり主体が全員で共に動いていく、共に未来をつくっていくという時代にきていると思います。

市長 そうですね。市民参加とよく言われますが、みんなで公共的なところにも関わっていくことが普通になってきた時代ですね。

田中 そうだと思います。

市長 また、国の社会資本整備審議会の委員としても活躍されてみえますが、現在、社会資本整備やインフラ整備についてどのような議論がなされているのですか。



田中 里沙さん

津市出身。県立津高校から学習院大学文学部に進み、広告会社を経て1993年に宣伝会議入社。1995年から広告専門誌「宣伝会議」の編集長を務め、2007年から編集室長。企業の広報宣伝戦略やマーケティングトレンド分析を手がけ、行政や企業の広報宣伝のあり方をアドバイスしている。三重県経営戦略会議委員、国土交通省社会資本整備審議会委員、中央環境審議会委員などを歴任。



田中 幅広い専門分野の方々が集まって、すでにある社会インフラをこれからどうすれば良いか、また暮らしやすさ、住みやすさを感じるための社会資本の在り方とは何かについて議論が進められています。

市長 今ある道路や橋、上下水道といったインフラをどのように維持管理し、そして人口の減少や高齢化が進む中で、これからいかに使いやすいものにしていくかということは、地方にとっても、とても重要なことですね。

東京から見たふるさと津

市長 最近のふるさと津について、どのようなことに注目をされていますか。

田中 高校卒業後、上京したばかりのころは、広い世界を見たいという気持ちが強かったのですが、歳を重ねるたびに津市の良さやふるさとの素晴らしさを実感するようになり、ふるさと津とのつながりが年々強くなってきたように思い

ます。若い人たちが主体性を持って、さまざまなことに関わり、そのノウハウを持ってふるさと津が今以上に元気なまちになるよう活躍してほしいですね。最近では、東京や神奈川出身の若者が旅行や仕事などで三重に来て、そのまま住んでいるという例も増えています。

市長 若い人にとっても魅力のある地域づくりが必要ですね。どのようなことがポイントだと思いますか。

田中 仕事の間があるということが重要ではないでしょうか。津市にはもともと優良な企業がたくさんありますし、市内の企業誘致もずいぶん進んでいると聞いていますので、興味の持てる仕事があると思います。

市長 近年では、製造業や研究開発など多様な企業の進出が進んでおり、先日も庄田工業団地へベルギーに本社がある企業の進出が決まりました。この会社では東京に営業のごく一部だけを残して、本社ごと津市に移転されるとのことで、情報化が進んだ今、地方に本社を置き、ビジネスを展開していけることになります。



田中 グローバル企業というのは、そういったところに先見の明がありますので、これからも同じように最先端の動きをする企業が増えていくと思います。

市長 女性が働きやすい環境について考えると、やはり子育て支援の充実が求められていますね。

変わりゆく中心市街地(三重会館前交差点)



昭和30年頃



現在

田中 子育てに関する環境はとても重要ですね。市のサポートやコミュニティなどの場があることで、女性は心強く思い、元気が出ますし勇気が出ます。

市長 子育ての環境が充実することで安心、そして安定して仕事をすることができますし、企業にとっても戦力としてメリットがありますね。

田中 それぞれの状況に応じた子育ての環境があることが理想だと思います。

市長 津市の待機児童は毎年4月1日時点ではゼロなのですが、10月ごろになると100人ぐらい出てきます。この3年間で保育所の定員を355人増やし、解消に努めているところですが、保護者の皆さんのニーズに合った子育てを支援していく地域にしていきたいと思っています。

田中 とても魅力的なお話ですね。これから津市で子育てをする若い人たちのためにも、支援の輪を少しずつでも広げていただきたいと思います。それと、少し元気がなくなっていた津市の街並みにも、少しずつ良い兆しがあると聞いていますので、この2～3年が楽しみだと思っています。

市長 昔のにぎわいを取り戻したいというのは私も同じ気持ちです。ただ、昔の街をそのまま取り戻すというわけにはいきません。そこで津センターパレスに中央公民館、まん中子ども館、まん中老人福祉センター、そして障がい者相談支援センターの4つの公共施設を集めました。年間9万人にも上る皆さんがこれらの施設を利用されることになり、これにより中心市街地に少しずつ人の流れが戻りつつあります。またこれらの施設を利用された人には、周辺の商店街や店舗でさまざまなサービスを受けることができるチケットをお渡しすることも行っていますし、これからますます元気になると思います。

田中 ふるさと津に新たな活気が戻ることは、とても素晴らしいですね。

市長 もう1つは、国道23号の西側に証券会社や銀行の本部ビルなどの建設が進むなど、新たなオフィス街が形成されつつあります。今の時代に合った新しいにぎわいを取り戻したいと思います。

田中 そのような新しいにぎわいが作り出されるというのは、とてもうれしいですし、これから



の津市が楽しみになりますね。

市長 今日、対談している三重テラスでは、津市をはじめ県内の物産品がたくさん販売されています。東京の皆さんに三重県のものを知っていただき、そしてこれは良いと思っていただく、これもマーケティングの1つですね。

田中 まさにそうですね。こういった商品に触れることで津市や三重県を知ることになり、これをきっかけに三重を訪れてみようと思う人は必ず増えていると思います。



市長 最後に、ふるさと津に対する想いをお願いします。

田中 今日は新しい津の街をつくっていくというお話をお伺いして、とてもワクワクした気分になりました。東京と津で相互に情報を交換し合い、津がますます光り輝き、多くの方から興味を持たれ、また暮らす人々が楽しくなるような街づくりに私も寄与したいです。

市長 本日は、ありがとうございました。

田中 ありがとうございました。

◆お知らせ◆

市長対談は、津市ホームページ・市長の部屋の市長対談でもご覧いただけます。

HP 津市 市長対談

検索

川喜田 半泥子

kawakita handeishi (1878 ~ 1963)

商家の長男に生まれ、実業家として地域経済界の要職を務める傍ら、陶芸家として、あるいは趣味人として、書・絵画・工芸・写真などのさまざまな芸術分野にその足跡を残した川喜田半泥子。多忙な日々の中で、その芸術世界に「しゃれ」や「遊び心」を忘れなかった彼の生涯をたどります。

明治11(1878)年、川喜田半泥子は川喜田久太夫家15代政豊の長男として生まれました。本名は川喜田久太夫政令^{まさのり}、幼名を善太郎といいます。川喜田家は寛永年間(1624~1644年)に創業した木綿問屋で、伊勢国に本拠を置き、江戸大伝馬町に江戸店を持つ豪商でした。

しかし、幼いころの半泥子は幸せとばかりはいえませんでした。祖父・父を相次いで亡くし、1歳で家督を相続、母とも別れた半泥子は祖母政から教育を受けて育ちます。政の勧めもあり、幼少期より禅道に入って学び、それが後の彼の人生に大きな影響を与えたようです。

25歳で百五銀行取締役役に就任した半泥子は、その後も百五銀行頭取ほか数々の企業の要職をこなし、また津市議会議員、三重県議会議員として、経済・政治など幅広い分野で活躍しました。

多忙な日々の中で、青年時代より芸術に関心を寄せていた半泥子は、茶道、油彩画、日本画、俳句と、その多芸ぶりを発揮していきます。

陶芸家として広く知られる半泥子は、子どものころから焼き物が好きだったようですが、本格的



に始めたのは還暦近くになってからといわれます。昭和初期には、自宅のある千歳山に初

めて小さな登り窯を築いて、若き陶工らと交流し、研究と修練を重ねていきました。戦後は長谷山中腹にある広永に窯を移して会社組織とし、弟子たちと共に作陶を楽しんだようです。

半泥子という号は「半ば泥みて半ば泥ます」という意味があり、すべてに熱中する半泥子のことから、家をつぶしてはならない、すべて半ば泥むがよからうと、禅の師が命名したといわれます。師の教えは、その人間性にも反映され、生み出された作品には他のものにはまねできない、絶妙なバランスと間がありました。



このような創作活動のほか、半泥子が力を尽くしたことに、地域文化の振興があります。昭和5(1930)年には財団法人石水会館(現在の公益財団法人石水博物館)を設立し、さまざまな事業を手掛け、教員の海外視察派遣や小児健康相談などの教育・福祉事業をはじめ、ホール、テニスコートなどを市民に開放して、美術展、講演会、音楽会、映画会、演劇などの文化事業も行いました。

このように、幅広い分野で活躍した半泥子は、昭和38(1963)年10月26日、老衰のため84歳で亡くなりました。半泥子の残した作品は、独自の世界を構築し、今も人々を魅了し続けています。

写真提供(公財)石水博物館

～川喜田半泥子の創作の地～ 千歳山の整備

市街地にまとまって緑が残された貴重な地、千歳山。平成20年4月にこの地の寄附を受けた津市では、地元の代表者や有識者などで構成する「津市千歳山を考える会」での協議や市民現地視察会でいただいた意見をもとに、千歳山を特色や

強みに応じた3つのゾーンに分け、残された貴重な自然を保全するとともに、現存する工作物なども活用し、市民の皆さんが半泥子が過ごした往時を感じることができ、文化や芸術を発信できるような公園として整備を進めます。

3つのゾーンに分類



水辺空間を活かしたゾーン

千歳池を中心とした豊かな水辺空間を活かしたゾーン

豊かな自然を保全するゾーン

巨木等の豊かな自然を保全するゾーン

歴史的な工作物を活かしたゾーン

本宅跡や千歳文庫などの残された歴史的な工作物等を活かしたゾーン

整備スケジュール (平成26～32年度)

基本計画の作成

敷地の立地条件などを分析評価し、空間構成や動線など公園の基本的な内容を決定

基本設計の作成

基本計画に基づき、公園などの骨格となる施設配置、諸施設の形状、基盤施設、植栽などの概略を設計

実施設計の作成

基本設計に基づき、安全性や機能性、デザイン性などの面から詳細な検討を行い、具体的な工事の内容を設計

工事着手

実施設計に基づき工事開始

1 まん中こども館と中央公民館の移転開設

7月1日にまん中こども館を、9月1日に新たに調理実習室と情報研修室を備えた中央公民館を津センターパレスに移転開設



調理実習室(中央公民館)



乳幼児ふれあいスペース(まん中こども館)

今後の取り組み

津センターパレスの再生や民間の建築プロジェクトを契機とした、“平成時代”の中心市街地づくりを展開

2 津ボートでSGチャレンジカップを開催



優勝戦のレースの様子

11月19日～24日にボートレース津にて、平成17年以來8年ぶりとなる最高峰クラスの

レースを開催。大盛況で、本場での売り上げ6億円を達成

今後の取り組み

平成26年のG I つつじ賞王座決定戦をゴールデンウィークに開催するなど、来場を促進

5 吉田沙保里杯 津市少年少女レスリング選手権大会を創設

世界選手権11連覇と五輪3連覇を達成した吉田選手の偉業を記念する「第1回吉田沙保里杯 津市少年少女レスリング選手権大会」を一志体育館で開催。全国から416人の児童・生徒が参加



大会当日の様子

今後の取り組み

さらなる参加者の拡大等を図り、第2回大会を開催

津市長が 平成25年 市政の



7 津市学校給食協会臨時職員による不正経理発覚



津市学校給食事務改革推進検討会の様子

津市学校給食協会の臨時職員が、約9年にわたって不正経理を行い、約4,200万円を着服していたことが発覚

今後の取り組み

再発防止に向け、津市学校給食協会の在り方、給食費の適正な管理、給食事務の会計処理方法などを決定し、改革を実施

8 学校トイレ快適化計画に基づき洋式化改修工事がスタート



洋式化されたトイレ

家庭でのトイレの洋式化が進むなか、計画に基づき平成25年度から栗真・一身田・片田・敬和小学校と西橋内中学校のトイレ洋式化の改修工事を実施

今後の取り組み

平成29年度までに、小学校18校、中学校7校の改修工事を実施予定

3

ポルタひさいの取得・久居都市開発株式会社の解散



ポルタひさい

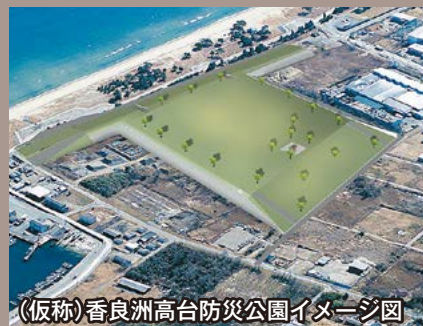
ポルタひさいを管理運営していた久居都市開発株式会社の債務を市が補償することを回避するため、7月1日に同社が所有するポルタひさいの不動産を市が取得。10月30日に久居都市開発株式会社が解散

今後の取り組み

平成27年1月にポルタひさいに久居総合支所・津南工事事務所・久居保健センターを移転開設

4

(仮称)香良洲高台防災公園の整備着工



(仮称)香良洲高台防災公園イメージ図

香良洲町に海拔10mの高台防災公園を整備するため、高台づくりに必要な土の搬入を開始。中勢バイパス等の整備や波瀬川・穴倉川のしゅんせつに伴う土砂を活用

今後の取り組み

平成29年春の供用開始に向け事業推進

6

総合支所の権限強化

地域インフラ維持・補修事業を創設し、1億5,600万円の予算執行や各総合支所職員の2人から4人の増員など、総合支所の権限・財源・人員を強化



地域の道路維持・補修

今後の取り組み

総合支所が主導的な役割を果たす予算執行の仕組みづくりとスピード感あふれる維持・補修事業の展開

選ぶ

10大ニュース

9

がん検診などの受診期間を3月まで延長

がん検診などの受診期間を延長

		これまで	平成25年度から
個別検診	乳がん検診 子宮がん検診	7月～ <u>12月</u>	7月～ <u>翌年3月</u>
	その他のがん検診 肝炎ウイルス検診	7月～ <u>11月</u>	
集団検診		7月～ <u>翌年2月</u>	
内視鏡検査が集団検診の一部の会場でも受診可能に		これまで	平成25年度から
胃がん検診(内視鏡検査)		個別検診のみ	個別検診＋ <u>集団検診</u> (一部の会場)

今後の取り組み

受診率のさらなる向上に向け、啓発を実施

10

津市職員の給与を削減

国家公務員の給与削減に合わせた地方公務員の給与に係る地方交付税の減額に対し、市民サービスの低下を招かないよう、特別職と一般職の給与を減額

- 特別職の給与を10～20%減額(減額率を上乗せ)
- 一般職の給与を平均2.79%減額

これまでの人件費削減に加え、昨年10月から今年3月までに総額約2億2,000万円の給与を削減

今後の取り組み

減額措置は平成26年3月末で終了し、4月以降は行財政改革に基づいた減額を引き続き実施

新春 市民インタビュー

テーマ 津市のここが一番好き!

田野 田万由子さん
(安濃町大塚)



直径15cmの大きな皮で包み、油で揚げたパリパリと音のするご当地グルメの津ぎょうざが大好きです。初めてこれを見たのは学校の給食で、あまりの大きさにビックリしました。今では大きな皮がスーパーでも売られるようになり、家でも作っています。インパクトのある津ぎょうざを一度召し上がってください。

加藤 祐也さん
(白塚町)



津市の給食発祥のご当地グルメ津ぎょうざを通じてまちづくりに携わることが好きです。学生時代に大門で行われた「うなとん対決」というグルメイベントでスタッフとして参加し、まちづくりの醍醐味を知りました。自分が生まれ育った津のいいところを津ぎょうざの活動を通して全国の人にもっと知ってもらいたいと思っています。

沓沢 佐知子さん
(美杉町八知)



美杉の自然が一番好きです。私の家の近くには、こけむした大岩があります。よく見ると、それを大木の根っこがつかみ、見事に一体化しています。ここに生活する人々は、その大岩に感謝や畏敬の念を持ちつつ、身近な存在として大切にしています。人と自然が共に生き、互いを大切にする暮らしに、心ひかれる美杉での日々です。

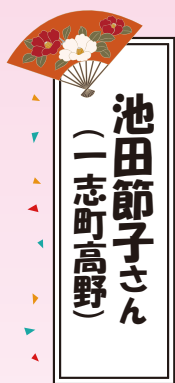
藤堂 高幸さん
(河芸町千里ヶ丘)



わがまち千里ヶ丘団地が大好きです。自宅から1kmの範囲内には、小学校や幼稚園などの公共施設をはじめ、郵便局や銀行、医療機関など暮らしに便利な施設も充実しています。海からは心地よい爽やかな風も届く、静かで環境の整ったこのまちが大好きです。



私は、きれいな水や風車の景観、お伊勢さん湯ごりの地で知られる温泉がある榊原が好きです。榊原は、地域と子どもの触れ合いも多く、「未来会議」では、若者がまちの未来を真剣に考え討論しています。将来、津市の子どもたちに「榊原へ行こう」と言ってもらえるまちづくりをし、もっと多くの人に愛されるまちにしたいと思います。



私の一番のお気に入りには地元の温泉です。ほぼ毎日利用し、きれいなつるつるとした湯に身を委ね、露天風呂から季節の変わりゆく姿を眺めるのがとても楽しく、健康増進にも役立ちます。また、環境も良く住みよいまちであり、息子家族も4年前に北海道から帰ってきて、故郷に親しんでいる姿がとても嬉しいです。



美里龍神太鼓に入団して16年、太鼓演奏を通じて各地のイベントに参加するのが好きです。中でも津まつりは、郷土芸能や安濃津よさこいなどで大変盛り上がり、津市合併を機に、見る側から参加する側へと変わって、皆さんと共に楽しんでいます。今後も津を元気にとの思いで、各地で演奏する中で、人との出会いを楽しみに励んでいきたいと思っています。



私は倭小学校に通っています。登校や下校の時に、地域のおじさんやおばさんが「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえり」「学校楽しかった？」と言葉を掛けてくれます。地域の方は、みんな優しいなと思います。私も元気に返事して学校であったことをもっと伝えたいと思います。私は温かい人がいっぱいいる白山が大好きです。



僕は、津市のお祭りが一番好きです。代表的なのが毎年10月にある津まつりです。その中でも370年の歴史を持つ唐人踊りがとても印象的です。また、僕が一番楽しんでいるのは安濃津よさこいです。毎年各チームが熱い演舞をしてくれます。だから、津市のお祭りが一番好きです。



昨年は20年に一度のお木曳きひきがありました。私は結婚して香良洲に来てから初めて参加し、お木曳音頭に合わせて町内を練り歩きました。その他にも香良洲では、毎年夏に宮踊りなどが行われます。私は、そんな香良洲の祭りの雰囲気が好きです。

みんなの 情報掲示板

イベント

市民とつくる

人権ネットワークの集い

津市人権・同和教育研究協議会ネットワーク研修会を開催します。

日 1月18日(土)13時30分～16時30分 場 美里文化センター

内 世直歩さんによる一人語り「しまひき鬼」と人権トーク、南郊中学校区子ども支援ネットワークと同協議会美里支部の取り組み報告

問 同協議会事務局(☎265-5547)

観海流寒中水泳

日 1月13日(月・祝)11時～(雨天決行) 場 阿漕浦海岸(交通遊園前) 内 観海流習得者による公開演技

問 観海流湧水会代表(☎228-6309)

募 集

津市青少年野外活動センター

平成26年度分の宿泊受け付け

日 1月15日(水)9時30分～ ※8時30分～9時15分に整理券を配布 場 同センター(神戸) 内 整理券の順に抽選して受け付け順を決定(ただし宿泊日数などを優先)、以降は先着順 ※日帰り利用は4月分は2月1日(土)～、5月分は2月10日(月)～、6月分以降は3カ月前から受け付け 対 青少年団体

問 同センター(☎228-4025)

災害ボランティア研修会

日 1月18日(土)13時～15時30分 場 久居総合福祉会館3階

内 宇治市災害ボランティアセン

ターの運営事例などの講演

問 津市社会福祉協議会(☎246-1165)

新春書き初め書道作品

課題は次のとおりです。

学年(小学生)	課 題
1年生	さくら
2年生	わかたけ
3年生	つよい子
4年生	日本ばれ
5年生	山里の春
6年生	広い宇宙

対 市内に在住・在学の小学生

申 1月11日(土)16時までに、直接または郵送で白半紙(縦33cm×横24cm)の左端に学校名、学年、氏名を記入して三重武道館(〒514-0103 栗真中山町816-6)へ(月曜休館) ※応募作品は返却しません。

問 同武道館(☎231-0969)

スキー・スノーボード教室ツアー

日 2月7日(金)～9日(日) 場 鹿島槍スポーツヴィレッジスキー場(長野県大町市) 対 市内に在住・在勤・在学の小学生以上 定 先 40人 費 2万2,000円(小学生1万9,000円)

申 1月7日(火)～22日(水)に津市スキー協会芸濃滑走隊担当(☎080-3611-8548)へ ※芸濃滑走隊ホームページからも申し込みできます。



第8回手作り甲冑教室

事前説明会

紙や家庭用品などで戦国時代の甲冑を手作りして、津まつり

や地域イベントに参加しませんか。

日 1月26日(日)13時30分～15時30分 場 津センターパレス3階ミーティングルーム 対 高校生以上の人

申 1月22日(水)までに三重ドリームクラブ(☎271-9978)へ



昨年の津まつり

50歳から高齢期を迎えるための整理収納セミナー

日 2月12日・19日・26日、3月5日いずれも水曜日14時～16時(全4回) 場 県生涯学習センター2階小研修室(県総合文化センター内) 内 中村恭子さん(整理収納アドバイザー認定講師)によるセミナー 定 先 25人 費 各回800円

申 1月13日(月・祝)から電話またはファクスで同セミナー担当(☎・FAX059-321-2970)へ

健康

UICC世界対がんデー2014 公開シンポジウム(無料)

「子どもにがん予防の姿勢を作る」をテーマに、公開討論会などを行います。

日 2月4日(火)14時～17時 場 県文化会館大ホール(県総合文化センター内) 定 1,100人

申 ファクスまたはEメールで三重大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室(FAX231-5012、✉ecdc01@clin.medic.mie-u.ac.jp)へ

問 同教室(☎232-1111、内線6372)

■ 転倒予防教室(無料)

日 1月23日(木)10時～11時30分
 場 津センターパレス地下1階市民オープンステージ
 内 講話「寒さに負けないからだづくり」と転倒予防体操(要約筆記あり)
 対 市内に在住の60歳以上の人
 定 100人
 申 1月9日(木)から津市社会福祉協議会津支部(☎213-7111)へ

無料相談コーナー

■ 犯罪被害者相談

日 毎週月～金曜日10時～16時(祝・休日、年末年始を除く)
 場 みえ犯罪被害者総合支援センター(栄町一丁目)
 内 犯罪の被害に遭った人や家族の相談 ※電話相談(☎221-7830)や法律相談(予約制)などもあります。
 問 同センター(☎213-8211)

■ 司法書士による法律相談

日 1月15日(水)13時30分～16時30分
 場 津リージョンプラザ2階健康教室
 内 相続、多重債務、金銭問題など
 定 8人
 申 1月7日(火)8時30分から電話で対話連携推進室(☎229-3105)へ

■ 税理士による2014税制相談会

日 2月1日(土)13時30分～16時30分
 場 サン・ワーク津
 内 税金や確定申告の相談
 申 1月27日(月)までに暮らしのほっとステーション津(☎224-6511)へ
 日 毎週火・金曜日 ※相談時間はお問い合わせください。
 場 三重弁護士会館(中央)
 内 交通事故に関する相談
 申 月～金曜日9時～17時に同弁

■ 交通事故相談(要予約)

護士会(☎228-2232)へ ※祝・休日、年末年始を除く

■ 行政書士定例相談(面談は要予約)

日 毎月第2木曜日10時～16時(祝・休日、年末年始を除く)
 場 三重県行政書士会事務局(広明町)
 内 許認可等の申請書類の作成や提出手続代理、契約書等の権利義務、事実証明の作成などに関する相談
 申 同会(☎226-3137)

■ 法的な困りごとは法テラスへ

日 毎週月～金曜日9時～21時、土曜日9時～17時(祝・休日、年末年始を除く)
 内 法的トラブルの解決に役立つ法制度や相談窓口の情報提供
 問 法テラスコールセンター(法的トラブル…☎0570-078374、犯罪被害者相談…☎0570-079714)

まちのできごと

琴、習字、生け花など日本の伝統文化に触れるさまざまな体験学習が、市内の小学校で行われました。

琴・安濃小学校10/30



習字・南が丘小学校10/31



琴・倭小学校11/25

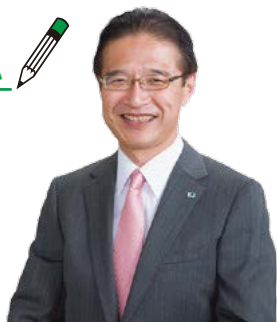


生け花・豊が丘小学校11/21

市長コラム

3つの決意 ～志高く～

津市長 前葉 泰幸



謹んで新春のお喜びを申し上げます。

本年は、現状に満足することなく、さらに水準や質の高い行政サービスを市民の皆さまにお届けできる津市政にしたいと決意を新たにいたしております。

そのためにも、平成26年は津市役所挙げて次のような取り組みを進めてまいります。

「アイデアを形にします」

市民との対話や庁内協議から生まれた施策のアイデアについては、「やらない理屈」を列挙することなく「できる方策」を考え出します。これまでも津波避難ビルや香良洲の高台防災公園、中心市街地ご来街

感謝券などのアイデアを制度化、事業化してまいりました。今年も新たに、千歳山を公園として市民に開放するアイデアなどを具体化します。

「スピーディーに答えを出します」

時間を引き延ばすだけの様子見や過剰な議論検討をやめ、スピード感を持って課題に向き合います。学校トイレの洋式化やがん検診の受診期間の拡大、高齢者見守りサービスの創設などは、比較的短期間で実施に移すことができました。今年も、「道の駅」河芸(仮称)などの新しい事業を迅速に進めます。

「難しい問題を先送りしません」

困難な問題を前に立ちすくむことなく、解決を図れるよう果敢に挑戦します。ポルタひさいと津センターパレスの再生、総合支所の権限強化や外資系企業の誘致など、これまで難しいとされてきた課題に解決策を見いだすことができました。今年も、「動き出さない救急車」などの懸案にも道筋をつけることができるよう努力する所存です。

津市役所職員一同、高い志を持ち、皆さまによりご満足いただける市政を目指してまいります。

「TV版市長コラム」では、前葉市長がこのテーマを語ります

HP 津市長コラム

検索

市長活動日記から



■ご当地グルメでまちおこしの祭典! B-1グランプリin豊川…11月9日



第8回のB-1グランプリが愛知県豊川市で開催され、津市からは「津ぎょうざ協会」が出展しました。津ぎょうざが学校給食メニューであることにちなんで、出展ブースは楽しくにぎやかな「津ぎょうざ小学校」です。

私も津ぎょうざ小学校PTA会長となって、行列に並んでくださった皆さんをおもてなしました。

順位が発表される10位以内には入りませんでしたが、B-1グランプリの本来の目的である「まちおこし」にふさわしく、ボランティアの皆さんに全力で津市をPRしていただきました。

■平成25年度津市総合防災訓練 (白塚漁港)…11月24日

平成25年度の津市総合防災訓練を実施し、自主防災協議会をはじめ、地元企業、警察、自衛隊、消防、医師団など43機関から約600名の皆さんにご参加いただきました。

震度6強の地震発生とそれに伴う大津波警報の発令を想定し、津市災害対策本部を設置しての情報収集訓練など、現場で指揮を執りました。

白塚漁港を会場とした訓練であり、津市消防本部潜水隊と四日市海上保安部の合同による水難救助訓練も初めて実施され、各機関が連携した極めて実践的な訓練を行うことができました。



■第16回SGチャレンジカップ優勝 表彰式(ボートレース津)…11月24日



ボートレース津において8年ぶりとなるSG競走「第16回SGチャレンジカップ」が開催されました。6日間で2万2千人を超えるお客さまをお迎えし、本場の売り上げは6億円を突破する盛況ぶりでした。

平成23年以降、営業成績を伸ばしてきたボートレース津の勢いが、SG競走の開催につながったもので、来年度は「GIつつじ賞」をゴールデンウィークという絶好の時期に開催できることとなりました。満員となったツッキードームでファンの皆さんに感謝し、さらなる盛り上げにつなげていきたいという強い思いを持ちました。

「市長活動日記」は津市ホームページでご覧になれます

HP 津市長活動日記

検索